

A / パフォーマンス「回游詩」

2/27 [sun.] 3/13 [sun.] 4/3 [sun.]

各日 13:00-17:00

早坂葉のパフォーマンス作品「新屋回游詩」をビヨンポイントの展示室内で行います。日時などは変更の可能性があります。最新の開催情報については本展公式Twitterアカウントをご覧ください。

※申し込み不要  @megurininijimu


B / アーティストトーク

「めぐりに滲むについて」

3/19 [sat.] 15:00-17:00

登壇者：後藤那月、早坂葉、渡邊泰地、白田佐輔
今回NOWHEREとして参加した作家やインストーラーなど4名が、本展の開催に至る経緯や、各作品の内容についてなどを語ります。



※事前申込み制/先着10名
申し込みフォームはこちらから 


C / トークイベント

4/9 [sat.] 15:00-17:00

美術家の是恒さくら氏をお招きして、秋田公立美術大学アーツ&ルーツ専攻准教授・石倉敏明氏とのトークイベントを開催します。

是恒 さくら (これつね・さくら)
広島県生まれ。2010年アラスカ大学フェアバンクス校卒業。アラスカでは先住民芸術、彫刻、絵画を学んだ。2015年に山形県に移住、2017年東北芸術工科大学大学院修士課程修了。2018～2021年東北大学東北アジア研究センター学術研究員。2021年秋より北海道苫小牧市在住。国内外各地の捕鯨、漁労、海の民俗文化を巡り、リトルプレスや刺繍、造形作品として発表する。リトルプレス『ありふれたくら』主宰。
www.sakurakoretsune.com

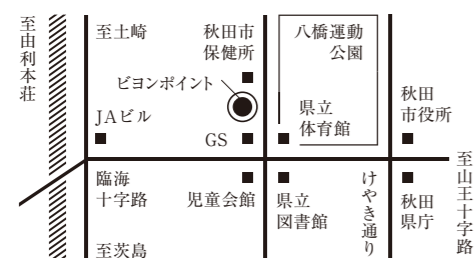


※事前申込み制/先着10名
申し込みフォームはこちらから 

お問い合わせ先：NPO法人アーツセンターあきた
〒010-1632 秋田市新屋大川町12-3
秋田公立美術大学 アトリエももさだ内
Tel : 018-888-8137 E-mail : bp@artscenter-akita.jp



新型コロナウイルスの感染拡大状況により、展覧会の開催期間や内容が変更になる可能性があります。詳しくは、アーツセンターあきたのWEBサイトよりご確認ください。



BIYONG POINT
秋田公立美術大学ギャラリー

秋田市八橋南1-1-3 CNA秋田ケーブルテレビ社屋内
秋田駅西口バスターミナルより、秋田中央交通バス2・3・5番線乗車「県立体育館前」秋田市保健所・サンライフ秋田前」停留所下車、徒歩3分
※お車の方は、CNA秋田ケーブルテレビお客様駐車場をご利用いただけます。

arts center akita

秋田公立美術大学
AKITA UNIVERSITY OF ART

プロフィール / Profile

早坂葉 / アーティスト

Hayasaka Yo

2000年 山形県生まれ

詩やアニメーション、インスタレーションなど様々なメディアを用いながらも、一貫して「人間と自然の関係」について探究し、その関係の曖昧な領域を表現しようと試みている。

2021年 展覧会「砂が叫ぶ」を開催、パフォーマンス「新屋回游詩」を実施。

後藤那月 / アーティスト

Goto Natsuki

2001年 秋田県生まれ

彫刻やインスタレーションなどのメディアを中心に制作を行う。自分自身の体験や内省を出発点として、自身と周囲の輪郭が交わる「浸り」の領域を描き出す表現を続けている。

2021年展覧会「めぐり方のレシピ」に参加。
2022年展覧会「息の緒の通り路」開催。

渡邊泰地 / インストーラー

Watanabe Taichi

2000年 山梨県生まれ

2021年、『削剥、浸蝕、綯錯』に

アーティスト兼インストーラーとして参加。

今チームでは『砂が叫ぶ』『息の緒の通り路』の設営を担当。

秋田県立近代美術館、秋田市文化創造館、

国際芸術センター青森に設営協力。

主に配信イベントの舞台セットや展示什器を制作。

2022 / 2 fri. 18 / 4 sun. 10

open 9:00 - 17:30

会期中無休

観覧無料

主催：秋田公立美術大学
協力：CNA秋田ケーブルテレビ
企画・制作：NPO法人アーツセンターあきた

秋田公立美術大学ギャラリー
BIYONG POINT (ビヨンポイント)

めぐりに滲む

早坂葉・後藤那月 二人展

Exhibition of two artists Hayasaka Yo / Goto Natsuki

BIYONG POINT
秋田公立美術大学ギャラリー

後藤那月
「息の緒の通り路」

後藤は秋田市新屋地区の「新屋NINO」を舞台に2022年1月14日～1月30日にかけて展覧会「息の緒の通り路」を開催しました。彫刻作品を軸としながら新屋NINO全体を一つのインスタレーション空間として扱ったこの展覧会は、NOWHEREが提示した「人間と自然の関係」という大きなテーマに対して、自分自身を出発点として探究を試みたものです。洞窟や胎内を思わせる展示空間を奥へと進むと、そこには霧が立ち込め彫刻たちの姿を覆い隠しています。自分を規定する境界というのは実は曖昧なもので、自分の外側で起きている現象と混ざり合っているのではないかという意識がこの展覧会の軸の一つになっています。



早坂葉
「新屋回遊詩」

早坂は12月から1月末にかけて秋田市新屋地区の様々な箇所を舞台としながらパフォーマンス作品「新屋回遊詩」を定期的に展開しました。詩の朗読・アニメーション・音楽が組み合わさったこのパフォーマンスは大海を往還する鮭をめぐる物語になっています。夜の街に鮭が泳ぎ出す映像はアメリカの詩人レイモンド・カーヴァーの詩に着想を得て制作されており、これは人間の領域と人間以外の存在である鮭たちの領域が混ざり合う情景の表現を試みたものです。またアニメーションというメディアの特性から変身（メタモルフォーゼ）の表現も取り入れられています。



本展覧会は、秋田公立美術大学に在籍する後藤那月・早坂葉（アーティスト）、渡邊泰地（インストーラー）、白田佐輔（コーディネーター）で構成されたチーム「NOWHERE」による作品展です。2021年度BIYONG POINT公募企画「ビヨンセクション」採択企画。

NOWHERE代表の早坂は、「人間と自然の関係」をテーマとして作品を制作しています。NOWHEREでは当初、このテーマを扱った展覧会を計画しました。しかし人間と自然の関係の探究は一人の人間の一生をすっぽりと覆ってしまいうるほどに茫漠とした領野へと繋がり、BIYONG POINTというギャラリーにその全て収めてしまうことは今の私たちには難しいだろうと思われました。そこで各々の視点から探究を深め、それぞれが人間と自然の関係に切り口を開き、人間と自然の関係の一端に触れることを目指すことにしました。

後藤と早坂は2021年12月からプレ展示やパフォーマンスという形で実験的な作品発表を行ってきました。後藤は彫刻作品を軸とした展示を実施し、早坂は詩とアニメーションを軸としたパフォーマンスを試みました。今回の展覧会は、そうした全く異なったアプローチを続けていた二人の表現の結節点にあたるものです。

テーマについて議論を深め、実験的に表現活動を行う過程で浮かび上がってきたのは、二人の作家が異なる表現を行っていたにもかかわらず、そこで触れようとしているものは非常に近い部分を持つという事実でした。二人のアーティストは広い意味での「境界」に関心を持ち、これが人間と自然の関係性を表現する上で重要な核の一つとなっています。本展ではプレ展示を踏まえて制作した新作を含む彫刻やインスタレーション作品を展示し、チームが見出した人間と自然の関係の一端を提示します。

NOWHERE代表 早坂葉

NOWHERE

NOWHEREは早坂葉と渡邊泰地を中心とした特定のメンバーを持たない展示企画プロジェクトです。2021年4月に新屋NINOにて展覧会「砂が叫ぶ」を開催しました。この展覧会は秋田市浜田地区の砂に埋まった家屋と、作家である早坂の出生地山形県酒田市の砂丘の光景を結んだ物語です。展示は人間の生活をおびやかした砂の物語に沿って展開し、最後には展示空間そのものが砂に埋もれてしまいます。



新屋 NINO

かつて印刷会社の倉庫として使用されていた建物を改装して作られたギャラリーで、奥に向かって長く伸びる空間は独特の雰囲気を持ちます。NOWHEREによる展示「砂が叫ぶ」では砂漠へと繋がってしまう空間として表現された新屋NINOは、後藤の展示では洞窟を思わせる空間となっています。

めぐりに
滲む

早坂葉・後藤那月 二人展

Exhibition of two artists Hayasaka Yo / Goto Natsumi